

広報 Koho Gallery
展示室

第42回

— 企画展 —

青木コレクション展 — 青木藤作の思い —

皆さんは、川村清雄を知っていますか？川村清雄の名前をご存じの方はあまり多くないかも知れません。でも、勝海舟や福澤諭吉の名前はだれでも知っているのではないのでしょうか。川村清雄は、彼らの肖像画を描いた画家です。幕臣の子として幕末の嘉永5年（1852）に生まれた清雄は、勝海舟の庇護のもとで洋画を描いた画家です。明治初期、旧幕臣に対する新政府の風当たりは相当強いものでした。清雄は身の委ね場所を外国に求め、徳川家の私費留学生の1人として欧米に渡りました。そこで画才を認められ、画家を志しました。

青木コレクションを作り上げた青木藤作が、川村清雄と出会うのは、昭和5年（1930）のことでした。この時清雄はすでに79歳になっていました。清雄のアトリエを藤作が訪れて以来、清雄が亡くなる昭和9年までの5年間、ふたりの交流は続きました。青木コレクションには画家との直接的なやりとりを通じないと手に入らないような私的な作品や、関係資料が含まれています。

図は「なた豆と雀」という作品です。雀が羽ばたく一瞬の姿を的確にとらえた描写は、写生などで研究したのでしょうか。なた豆よりも小さい雀が愛らしい作品です。この作品は板に漆塗りをして、その上に油彩で描いたものです。板に直接、あるいは地作りをして絵を描くことを清雄はよく行い



「なた豆と雀」 川村清雄

ました。漆は職人に塗らせたといえます。この板はもともと茶道で風炉や水指を乗せる長板であったそうです。

本展では他にも、青木藤作が3組作らせ、1組を川村清雄に贈った棚や、青木藤作宛の川村清雄の書簡など、藤作と清雄の付き合いの一端がうかがわれる作品や資料もご紹介します。広重の浮世絵が有名な青木コレクションですが、藤作は同じ時代を生きた近代の芸術家に対しても良き理解者であったのです。

那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 河野結美

【会 期】 ～4月12日（日）まで

【ミュージアムトーク（展示解説）】

3月14日（土）午後1時30分～当館学芸員

【開館時間】 午前9時30分～午後5時

（ただし入館は4時30分まで）

【休 館 日】 3月2日、9日、16日、23日、30日、4月6日

※毎月第3日曜日は「家庭の日」です。お子様（中学生以下）連れのご家族は、観覧料が無料になります。

ミニギャラリー
作品募集！

あなたの作品をここに出展してみませんか？

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問合せ：企画財政課

☎0287-92-1114

第4回那珂川町学生版画コンクール
町長賞受賞作品
「KOHASEN」 網野翔太さん（馬頭）



ミニ
ギャラリー



サゼンノウ（梅曾公園）